

静岡社会健康医学大学院大学
博士後期課程 シラバス

2023年度入学

博士後期課程科目一覧（シラバス目次）

科目区分	授業科目の名称	必修／ 選択区分	単位数	配当 年次	開講 時期	曜日	時限	教室	シラバス ページ
基礎科目	社会健康医学特講	必修	1	1年	通年	土	4	講義室3	2
特別演習科目	博士課程セミナー1	必修	1	1年	通年	土	5	講義室3	3
	博士課程セミナー2	必修	1	2年	通年	土	5	講義室3	4
	博士課程セミナー3	選択	1	3年	通年	土	5	講義室3	5
特別研究科目	社会健康医学研究	必修	12	1～3年	通年				6,7

科目名	社会健康医学特講		開講時期	通年
必修区分	必修		開講日・時限	土曜日・4時限(14:40～16:10)
単位数	1単位(90分×8コマ)		使用教室	演習室4
配当年次 (履修推奨年次)	1年次		本科目の受講にあたり 単位修得必須の科目	—
科目責任者	田原康玄		本科目の受講にあたり 単位修得が望ましい科目	—
担当教員	田原康玄、高木明、菅原照、臼井健、小島原典子、栗山長門、森潔、木下和生、竹内正人、高山智子、山本精一郎、古川茂人、山崎浩司、堀内泰江、天笠崇、森寛子、佐藤康仁、溝田友里、田中仁啓、中谷英仁、藤本修平、佐々木八十子、八田太一、佐藤洋子			
科目概要	<p>社会健康医学の最先端で研究を牽引している研究者や専門家を招き、研究の内容や成果、社会実装に対する取り組みなどについて実践的に学ぶ。国内だけでなく国際的に活躍している研究者を招くことで、世界に広く目を向け、諸外国に現存する健康課題についても見渡せる幅広い視野を養う。社会健康医学は極めて幅広い領域に跨がる学問であり、かつ医学・保健学などの近接領域に限定されない学際的な学識も必要とされることから、様々な研究領域の研究者を招く。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (田原康玄・高木明・菅原照・臼井健・小島原典子・栗山長門・森潔・木下和生・竹内正人・高山智子・山本精一郎・古川茂人・山崎浩司・堀内泰江・天笠崇・森寛子・佐藤康仁・溝田友里・田中仁啓・中谷英仁・藤本修平・佐々木八十子・八田太一・佐藤洋子／1回)(全8回一部共同)</p> <p>担当教員は、いずれかの回を輪番制で担当し、本人担当回のテーマに適した外部講師を選定・招へいするとともに、授業ではファシリテーターとして討論を先導し、また意見集約を図る。</p>			
到達目標	社会健康医学ならびに関連する研究領域において、どのような研究が行われているか理解する。個々の研究の目的、得られた成果の意義、社会実装の方法や効果について理解する。			
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員
	1	保健医療情報	レセプトなどの医療ビッグデータの解析研究を先導する研究者や専門家をゲストスピーカーとして招聘し、当該領域研究の最先端を学ぶ。	田原康玄 高木明 菅原照 臼井健 小島原典子 栗山長門 森潔 木下和生 竹内正人 高山智子 山本精一郎 古川茂人 山崎浩司 堀内泰江 天笠崇 森寛子 佐藤康仁 溝田友里 田中仁啓 中谷英仁 藤本修平 佐々木八十子 八田太一 佐藤洋子
	2	がん疫学	がんの疫学研究を先導する研究者や専門家をゲストスピーカーとして招聘し、当該領域研究の最先端を学ぶ。	
	3	ライフコース疫学	小児や女性を対象とした疫学研究やライフコース疫学研究を先導する研究者や専門家をゲストスピーカーとして招聘し、当該領域研究の最先端を学ぶ。	
	4	加齢性疾患・介護予防	高齢者を対象とした疫学研究や介護予防研究を先導する研究者や専門家をゲストスピーカーとして招聘し、当該領域研究の最先端を学ぶ。	
	5	社会疫学	社会疫学研究を先導する研究者や専門家をゲストスピーカーとして招聘し、当該領域研究の最先端を学ぶ。	
	6	栄養疫学	栄養疫学研究を先導する研究者や専門家をゲストスピーカーとして招聘し、当該領域研究の最先端を学ぶ。	
	7	遺伝疫学	多因子疾患、がん、難治性疾患の遺伝疫学研究を先導する研究者や専門家をゲストスピーカーとして招聘し、当該領域研究の最先端を学ぶ。	
	8	言語・認知と脳科学	認知脳科学の観点から、聴覚・言語・認知やその発達に関する研究を先導する研究者や専門家をゲストスピーカーとして招聘し、当該領域研究の最先端を学ぶ。	
評価方法	講義中の討論への参加度(討論への参加の積極性・質問の適切性)(30%)・期末レポート(70%)			
テキスト	必要に応じて資料を配付する	参考書	指定しない	
授業時間外で行う学修内容	予習: 予め配付される講義資料を熟読すること 復習: 講義内容に関連した資料や論文を読み、理解を深めること。			
備考				

科目名	博士課程セミナー1		開講時期	通年
必修区分	必修		開講日・時限	土曜日・5時限(16:20～17:50)
単位数	1単位(90分×8コマ)		使用教室	演習室4
配当年次 (履修推奨年次)	1年次		本科目の受講にあたり 単位修得必須の科目	—
科目責任者	田原康玄		本科目の受講にあたり 単位修得が望ましい科目	—
担当教員	田原康玄、高木明、菅原照、臼井健、小島原典子、栗山長門、森潔、木下和生、竹内正人、高山智子、山本精一郎、古川茂人、山崎浩司、堀内泰江、天笠崇、森寛子、佐藤康仁、溝田友里、田中仁啓、中谷英仁、藤本修平、佐々木八十子、八田太一、佐藤洋子			
科目概要	博士課程セミナーは全学年合同で開催し、論文抄読、研究成果の経過報告と討議、特別講演などを行う。 博士課程セミナー1を履修する1年次は、主に上級生の発表や、教員、外部講師による講評を聞くことで研究の実施に関して基礎的な知識を身につけるとともに、質疑や討論に加わることで研究を客観的に吟味する力を身につける。			
到達目標	先行研究や他の院生の研究を客観的に吟味し、研究の内容について討論することができる。			
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員
	1	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論に加わる。	田原康玄 高木明 菅原照 臼井健 小島原典子 栗山長門 森潔 木下和生 竹内正人 高山智子 山本精一郎 古川茂人 山崎浩司 堀内泰江 天笠崇 森寛子 佐藤康仁 溝田友里 田中仁啓 中谷英仁 藤本修平 佐々木八十子 八田太一 佐藤洋子
	2	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論に加わる。	
	3	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論に加わる。	
	4	研究成果の経過報告	他の院生の研究報告を聞いた上でその内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論に加わる。	
	5	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論に加わる。	
	6	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論に加わる。	
	7	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論に加わる。	
	8	研究成果の経過報告	他の院生の研究報告を聞いた上でその内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論に加わる。	
評価方法	討論への参加度(基礎的知識の理解度・討論への参加の積極性・質問の適格性)(100%)			
テキスト	なし	参考書	必要に応じて適切な資料を提示する。	
授業時間外で行う学修内容	復習:セミナーで扱った論文や研究に関する関連資料を読み、当該研究の世界的な動向や類似研究に対する優位性等について理解を深める。			
備考				

科目名	博士課程セミナー2		開講時期	通年
必修区分	必修		開講日・時限	土曜日・5時限(16:20～17:50)
単位数	1単位(90分×8コマ)		使用教室	演習室4
配当年次 (履修推奨年次)	2年次		本科目の受講にあたり 単位修得必須の科目	博士課程セミナー1
科目責任者	田原康玄		本科目の受講にあたり 単位修得が望ましい科目	—
担当教員	田原康玄、高木明、菅原照、臼井健、小島原典子、栗山長門、森潔、木下和生、竹内正人、高山智子、山本精一郎、古川茂人、山崎浩司、堀内泰江、天笠崇、森寛子、佐藤康仁、溝田友里、田中仁啓、中谷英仁、藤本修平、佐々木八十子、八田太一、佐藤洋子			
科目概要	博士課程セミナーは全学年合同で開催し、論文抄読、研究成果の経過報告と討議、特別講演などを行う。 博士課程セミナー2を履修する2年次からは、論文抄読を積極的に行うことで幅広い知識を身につけるとともに、自身の研究成果の経過報告を行い、様々な分野の教員や外部講師から講評を受けることで、研究の方向性や社会実装に関する知見を深める。また、セミナーでの発表を通じて、プレゼンテーションや質疑応答など研究者に必要なとされる素養を養う。 博士課程セミナー2では、自らセミナーの運営や外部講師の招聘を担うことで、研究者として必要なマネジメント能力も養う。			
到達目標	先行研究や他の院生の研究を客観的に吟味し、研究の内容について討論することができる。 論文抄読や研究成果の経過報告において、研究の内容を端的に説明でき、質疑に適切に応えられる。 外部講師の招聘を含め、セミナーを運営することができる。			
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員
	1	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	田原康玄 高木明 菅原照 臼井健 小島原典子 栗山長門 森潔 木下和生 竹内正人 高山智子 山本精一郎 古川茂人 山崎浩司 堀内泰江 天笠崇 森寛子 佐藤康仁 溝田友里 田中仁啓 中谷英仁 藤本修平 佐々木八十子 八田太一 佐藤洋子
	2	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	
	3	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	
	4	研究成果の経過報告	研究成果を発表し、質疑に応える。 他の院生の研究について内容を吟味するとともに、研究内容等について討論する。	
	5	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	
	6	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	
	7	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	
	8	研究成果の経過報告	研究成果を発表し、質疑に応える。 他の院生の研究について内容を吟味するとともに、研究内容等について討論する。	
評価方法	討論への参加度(討論への参加の積極性・プレゼンテーションの完成度・質問の適格性)(40%) 先行研究の理解度と客観的評価力(50%) セミナー運営への貢献(10%)			
テキスト	なし	参考書	必要に応じて適切な資料を提示する。	
授業時間外で行う学修内容	復習:セミナーで扱った論文や研究に関する関連資料を読み、当該研究の世界的な動向や類似研究に対する優位性等について理解を深める。			
備考				

科目名	博士課程セミナー3		開講時期	通年
必修区分	選択		開講日・時限	土曜日・5時限(16:20～17:50)
単位数	1単位(90分×8コマ)		使用教室	演習室4
配当年次 (履修推奨年次)	3年次		本科目の受講にあたり 単位修得必須の科目	博士課程セミナー1 博士課程セミナー2
科目責任者	田原康玄		本科目の受講にあたり 単位修得が望ましい科目	—
担当教員	田原康玄、高木明、菅原照、臼井健、小島原典子、栗山長門、森潔、木下和生、竹内正人、高山智子、山本精一郎、古川茂人、山崎浩司、堀内泰江、天笠崇、森寛子、佐藤康仁、溝田友里、田中仁啓、中谷英仁、藤本修平、佐々木八十子、八田太一、佐藤洋子			
科目概要	<p>博士課程セミナーは全学年合同で開催し、論文抄読、研究成果の経過報告と討議、特別講演などを行う。</p> <p>博士課程セミナー3を履修する3年次は、2年次と同様に論文抄読を積極的に行うことで幅広い知識を身につけるとともに、自身の研究成果の経過報告を行い、様々な分野の教員や外部講師から講評を受けることで、研究の方向性や社会実装に関する知見を深める。また、セミナーでの発表を通じて、プレゼンテーションや質疑応答など研究者に必要なとされる素養を養う。ただし、2年次よりも高いレベルの論文を選択し、また複数の論文を系統的にレビューするなど、一段高いレベルで抄読や討議を行う。</p> <p>博士課程セミナー3では、自ら論文抄読や研究成果の経過報告を行うだけでなく、低学年生の研究支援も担うことで、研究者としてのリーダーシップを養う。2年次から継続してセミナーの運営や外部講師の招聘を担い、研究者として必要なマネジメント能力をさらに高める。</p>			
到達目標	<p>先行研究や他の院生の研究を客観的に吟味し、研究の内容について討論することができる。</p> <p>論文抄読や研究成果の経過報告において、研究の内容を端的に説明でき、質疑に適切に応えられる。</p> <p>外部講師の招聘を含め、セミナーを運営することができる。</p> <p>低学年生の研究(論文抄読や研究発表)を支援することができる。</p>			
授業展開	授業回数	テーマ	内容	担当教員
	1	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	田原康玄 高木明 菅原照 臼井健 小島原典子 栗山長門 森潔 木下和生 竹内正人 高山智子 山本精一郎 古川茂人 山崎浩司 堀内泰江 天笠崇 森寛子 佐藤康仁 溝田友里 田中仁啓 中谷英仁 藤本修平 佐々木八十子 八田太一 佐藤洋子
	2	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	
	3	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	
	4	研究成果の経過報告	研究成果を発表し、質疑に応える。 他の院生の研究について内容を吟味するとともに、研究内容等について討論する。	
	5	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	
	6	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	
	7	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	
	8	研究成果の経過報告	研究成果を発表し、質疑に応える。 他の院生の研究について内容を吟味するとともに、研究内容等について討論する。	
評価方法	<p>討論への参加度(討論への参加の積極性・プレゼンテーションの完成度・質問の適格性)(40%)</p> <p>先行研究の理解度と客観的評価力(50%)</p> <p>低学年生の研究発表や論文抄読の支援(10%)</p>			
テキスト	なし	参考書	必要に応じて適切な資料を提示する。	
授業時間外で行う学修内容	復習:セミナーで扱った論文や研究に関する関連資料を読み、当該研究の世界的な動向や類似研究に対する優位性等について理解を深める。			
備考				

科目名	社会健康医学研究		
必修区分	必修		
開講時期	1年次～3年次・通年	単位数	12単位
科目責任者	博士課程指導教員	担当教員	博士課程指導教員 博士課程副指導教員
科目概要	博士論文の作成に向けて、指導教員による指導の下、社会健康医学における具体的な課題を設定し、当該領域の学術的発展に寄与するとともに実践的な課題解決に向けた方策の提案にも貢献する研究を遂行する。また、研究成果の社会実装を見据えた研究も積極的に行う。 社会健康医学研究の実施に必要な倫理承認を得るプロセスを経験することで、研究者としての倫理観を実践的に養う。		
到達目標	単著または筆頭著者として、査読制度のある学術雑誌に掲載されている、または掲載が予定されている論文を1編以上有する。 社会健康医学の学識を身につけ、かつ高い研究遂行能力、研究成果の社会への実装能力、教育研究における指導的・先導的能力も身につけている。 研究計画の倫理承認の取得や、対象者からの同意取得のプロセスを通じて、研究者として必要な高い倫理観を身につけている。		
	<p>【1年次】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、指導教員の決定及び研究指導開始(4月) 2. 研究課題の決定(4～6月) 3. 研究計画の立案(7月以降) 4. 研究成果の中間発表(2月) 5. 単位認定、状況確認(3月) <p>1年次の単位認定及び科目履修状況、研究の進捗状況を確認する。</p> <p>【2年次】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の遂行、進行状況確認(4月以降) 2. 研究倫理審査(適時) 3. 研究計画に基づいた研究の遂行(4月以降) 4. 研究成果の中間発表(2月) 5. 単位認定、状況確認(3月) <p>【3年次】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の遂行、進行状況確認(4月以降) 2. 博士論文の審査申請(9月以降) 3. 博士論文の提出(9月以降) 4. 博士論文発表会・最終審査(12～2月) <p>(田原 康玄)生活習慣病・循環器疾患・フレイル・認知症のリスク因子の解明と予防・介入方法に関するゲノム・疫学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(高木 明)新生児聴覚スクリーニングにより発見された難聴児の早期の人工内耳手術から引き続く適切な介入による音声言語発達の変容に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(菅原 照)慢性腎臓病(CKD)などの生活習慣病の早期発見、早期診断、早期治療介入の推進が日本人の健康問題の予防と健康寿命の延伸に関連することについての研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(臼井 健)精密医療実現のためのゲノム医療の推進および遺伝カウンセリングを含む遺伝診療の果たす役割に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(小島原 典子)ワクチンによる呼吸器感染症の予防効果、産業保健介入が働きがいと与える影響、電磁界など物理因子の健康影響などに関するシステムティックレビューや疫学研究を指導し、論文作成を支援する。</p> <p>(栗山 長門)長寿・認知症・がんを中心とした予防医学に関する研究、社会における健康リスクと関連要因の研究、コホート調査に関する研究課題を中心に、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(森 潔)高額の医療費・介護費を必要とする腎疾患及び関連する生活習慣病・心血管疾患・癌などについて、危険因子の同定と積極的健康増進を目標とした研究課題を設定し、研究デザインおよび論文作成のプロセスを指導する。</p> <p>(木下 和生)抗体遺伝子やがん関連遺伝子の変化を惹起する酵素AIDの遺伝子多型と、アレルギー免疫疾患および悪性腫瘍の発症頻度との関連を調査する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p>		

<p>授業展開</p>	<p>(竹内 正人)健康保険組合保有データベースやDPCデータベースをはじめとする大規模医療データベースを用いた臨床疫学・薬剤疫学に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(高山 智子)がん患者や生活者と医療者とのコミュニケーションに関する研究、パブリックヘルスコミュニケーションの質の改善に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(山本 精一郎)がんを中心とした様々な疾患領域の治療、予防のための新しい医療技術(医薬品を含む)開発に資する臨床試験の計画、実施、解析について指導する。がんを含む生活習慣病予防や二次予防としての健診・検診分野における行動変容を促す方法の開発・評価・普及について指導する。</p> <p>(古川 茂人)難聴の特性・リスク評価への展開を想定した、「聞こえ」の測定やメカニズム解明に関する心理物理学・神経生理学・認知科学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(山崎 浩司)死別体験者のグリーフに対する健康増進的支援、臨床死生学、インフォーマルケアに関する研究課題について、主に質的研究を用いた論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(堀内 泰江)臨床ゲノム解析による遺伝子型と表現型の関連研究成果をふまえ、ゲノム医療の推進、遺伝カウンセリングの質向上に関わる研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(天笠 崇)労働ストレス要因と精神疾患、職場のメンタルヘルス対策、社会生活技能訓練を初めとした心理社会的支援による精神健康の改善に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(森 寛子)在宅介護者のQOL、質的研究法、量的研究法による少数集団の体験・価値観の探索に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(佐藤 康仁)生活環境における物理的因子、化学的因子、生物学的因子、気象因子、地理的因子等と健康に関する統計解析を用いた疫学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(溝田 友里)行動科学やナッジ、ソーシャルマーケティング等を活用した、健康に関する行動変容(身体活動、食事、禁煙、がん検診受診、特定健診受診、検査受検等)を促すための研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(田中 仁啓)循環器疫学のアプローチを使用し、疾患リスク・関連因子の解明を目指す研究課題を中心に、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(中谷 英仁)医薬に関する介入、観察研究の統計的手法及び解析、疾患の発症・悪化及び死亡に関する予測因子探索及び予測モデル構築に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(藤本 修平)リハビリテーション領域の介入研究・大規模データ分析、リハ職種の診療ガイドライン活用・Evidence-based practiceに関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(佐々木八十子)医療や介護等の質の向上のための持続的かつ効果的なコミュニケーション・組織の在り方に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(八田 太一)混合研究法を用いたインフォームド・コンセントにおける医療者・患者関係の分析をはじめ、患者の自発性や意思決定場面にかかわる研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(佐藤 洋子)観察研究における統計的手法及び解析、希少難治性疾患におけるプロファイル解析及び診断/予後モデルの構築・評価に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p>		
<p>評価方法</p>	<p>博士論文の最終審査(口頭試問を含む) 博士論文の審査にあたっては、①社会健康医学における新たな学術的知見の創出に資する研究であること、②研究の方法と論旨展開が適切であり、かつ倫理的にも適切な研究であること、③社会健康医学の発展に寄与する学術的価値、独創性、実現性を備えていることを評価基準とする。</p>		
<p>テキスト</p>	<p>—</p>	<p>参考書</p>	<p>—</p>
<p>備考</p>	<p></p>		